

○解説のポイント↓詩の基礎を確認し、表現技法をマスターする！

春に 谷川俊太郎

第1のまとめ

この気もちはなんだろう
目に見えないエネルギーの流れが
大地からあしのうらを伝わって
ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ
声にならないさけびとなってこみあげる
この気もちはなんだろう

第2のまとめ

枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく
よるこびだ しかしかなしみでもある
いらだちだ しかもやすらぎがある
あこがれだ そしていかりがかくれている
心のダムにせきとめられ
よどみ渦まきせめぎあい
いまあふれようとする
この気もちはなんだろう

第3のまとめ

あの空のあの青に手をひたしたい
まだ会ったことのないすべての人と
会ってみたい話してみたい
あしたとあさってが一度にくるといい
ぼくはもどかしい
地平線のかなたへと歩きつづけたい
そのくせこの草の上でじっとしていたい
大声でだれかを呼びたい
そのくせひとりで黙っていたい
この気もちはなんだろう

○ここで学習詩の表現技法

① この気もちはなんだろう
はんぶくほう

〈反復法・リフレイン〉

↓繰り返すことで印象を強めることができる。

② 枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく
ぎじんほう

〈擬人法〉

↓^{ひゆ}比喩表現の中でも動物や生命でないものに人間の^{ひゆ}特徴をもたせ、例えること。

③ 心のダムにせきとめられようとする
あゝの空のあの青に手をひたしたい
いんゆ

〈隠喩〉

↓^{ひゆ}比喩表現の中でもたとえの表現だが、「ようだ」のようなたとえの形式になっていないもの。

④ よるこび かなしみ
いらだち やすらぎ
あこがれ と いかり

〈対句〉

↓同じような構成の文を並べて、違いや共通性を際立たせること。

詩の形式 ☆注目のポイント

一、現代の言葉で書かれているかどうか。

口語・・・現代の言葉

文語・・・古い時代の言葉

二、決まった形式で書かれているかどうか。

自由・・・字数などの決まりがなく、自由な形式

定型・・・字数や句の数、配列などが一定

(例↓五・七・五の俳句や五・七・五・七・七の短歌などは定型詩)

←これらを組み合わせるだけ！

口語自由詩・・・現代の言葉で自由な形式で書かれているもの

文語自由詩・・・古い時代の言葉で自由な形式で書かれているもの

口語定型詩・・・現代の言葉で一定の形式で書かれているもの

文語定型詩・・・古い時代の言葉で一定の形式で書かれているもの

詩の区切り・・・「連」(れん)

↓はじめから最初の一区切りまでを一連、一区切りから次の区切りまでを二連と数える。

詩の表現技法のまとめ(特に大切な五技法)

① 比喩・・・あるものを別のものにたとえて印象深くすること。

比喩の仲間

直喩・・・比喩表現の中でも「**ようだ**」「**みたいだ**」などの言葉を用いて、**たとえる**。

隠喩・・・比喩表現の中でも「**ようだ**」「**みたいだ**」のようなたとえの形式を用いないで、**たとえる**。

擬人法・・・比喩表現の中でも人間以外のものを**人間にたとえる**。

擬声語・擬態語・・・比喩表現の中でも**自然現象の音や人間・動物の声にまねて、たとえる**。

② 反復法(リフレイン)・・・同じ語句や文を**繰り返し用いて**、印象を強める。

③ 倒置法・・・語句の**順序を入れ替えて**、文の意味を強める。

④ 体言止め・・・文末を**体言(体言とは名詞のこと)**で止め、簡潔で引き締まった印象を残す。

⑤ 対句法・・・**似た構成で意味も対応する二つの語句や文を並べて**、読み手の注意をひきつける。

覚えることはたったの4つ！
しっかりと覚えてしまおう！